「近世佐倉城と城下町」
－『古今佐倉真佐子』を中心に－

佐倉市文化財審議会　副委員長　外山　信司　先生

はじめに

佐倉　…千葉県内で唯一、近世遺跡の発掘調査が行われるまち

江戸の考古学の豊かな成果

「モノ」が語ること

1　『古今佐倉真佐子』とは

・佐倉藩主稲葉家の家臣、渡辺善右衛門守由（1701～62）の著

・宝暦３年（1753）以前の成立、約250年前の佐倉について詳細に記述、彩色された絵図「総州佐倉御城府内之図」が付く…「府内は絵図と引合見ると、とくと合点する也。」

佐倉藩主稲葉家　…正通（正往）、元禄14年（1701）越後国高田（新潟県上越市）から～正知、享保８年（1723）山城国淀（京都市伏見区）へ

佐倉の姿が形作られた稲葉氏の時代

稲葉家家臣、磯辺昌言の著書『総葉概録』（歴史）『佐倉風土記』（地誌）

2　『古今佐倉真佐子』にみる佐倉城

（1）佐倉城下城郭の趣

（2）三之丸一曲輪之趣

（3）椎木曲輪いちゑんに印す

（4）根曲輪辺より七曲天神曲輪之趣

（5）天神曲輪より表裏広小路、中下町、大下町之趣

（6）鷹てう町辺之趣

3　『古今佐倉真佐子』にみる城下町

（1）宮小路より新長屋辺並かぶらき小路辺の趣

（2）新町入口札之辻より肴町辺、なかびやう　もかみ町、八軒町、同心町辺の趣。並あいの町、久保丁、元町の辺迄の趣

おわりに

弥勒町遺跡から出土したアカニシ

「モノ史料」と「文献史料」